



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

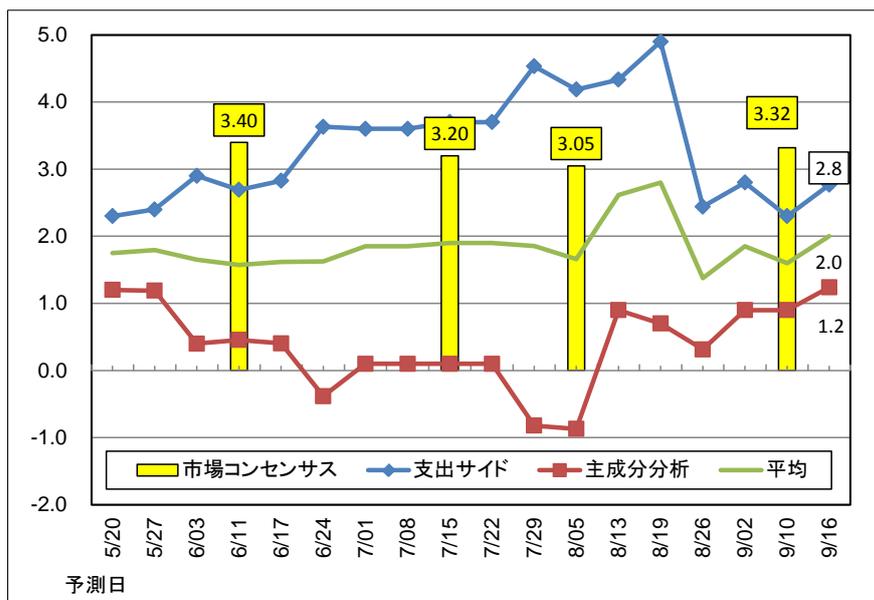
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年9月16日)

## ポイント

- ▶先週更新されたデータは、8月の国内企業物価指数、7月の鉱工業指数(確報値)、第3次産業活動指数及び機械受注である。
- ▶7月のコア機械受注は2ヵ月連続の前月比マイナスだが、4-6月期平均比+1.4%増加した。7-9月期最初の月としては悪くない結果。機械受注は緩やかに持ち直している。
- ▶8月の国内企業物価指数は前年比+2.4%と5ヵ月連続のプラス。8月の輸出入物価はともに10ヵ月連続のプラスとなったが、交易条件は8ヵ月連続で悪化。輸出物価の上昇幅が輸入物価のそれになかなか追いつかない状況が続いている。
- ▶今週(9/16)の超短期モデル(支出サイド)は、同期の実質GDP成長率を前期比年率+2.8%と予測。主に民間企業設備と純輸出の予測値が上方修正されたため、先週からは上方修正。先行きは今週発表される8月の貿易統計の結果がポイントとなる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



## <7-9月期成長率市場コンセンサスを下回る。企業設備は緩やかに持ち直しているが、純輸出の改善がカギ>

先週(9/10-9/13)に更新されたデータは、8月の国内企業物価指数、7月の鉱工業指数(確報値)、第3次産業活動指数及び機械受注である。これらは民間企業設備、民間企業在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

7月のコア機械受注は前月比-0.0%と2ヵ月連続のマイナスだが、4-6月期平均比+1.4%増加した。実際、7-9月期見通しから上振れており、同期の最初の月としては悪くない結果。機械受注は緩やかに持ち直している。また7月の資本財出荷指数(確報値)は速報値から上方修正。結果、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は上方修正された。

8月の国内企業物価指数は前年比+2.4%と5ヵ月連続のプラス。また上昇幅は5ヵ月連続で加速している。国内企業物価を段階別に見れば、素原材料価格、中間財価格、最終財価格と価格転嫁が緩やかに進んでいる。8月の輸出物価指数は前年比+12.6%上昇し、10ヵ月連続のプラス。輸入物価指数も同+17.6%上昇し、10ヵ月連続のプラスとなった。しかし、交易条件(輸出物価/輸入物価)指数は8ヵ月連続で前年比悪化している。輸出物価の上昇幅が輸入物価のそれになかなか追いつかない状況が続いている。

7-9月期は内需拡大のスピードは前期から加速するが、純輸出は一転縮小する。今週(9/16)の超短期モデル(支出サイド)は、同期の実質GDP成長率を前期比年率+2.8%と予測。政府最終消費支出の予測値は下方修正されたが、民間企業設備、民間在庫品増加と純輸出が上方修正された結果、先週(同+2.3%)からは上方修正。現時点の予測は市場コンセンサスを下回っているが、先行きについては今週発表される8月の貿易統計の結果がポイントとなる。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690